

●木津川希少種植生調査 除草作業にミスが目立ちました 2か所で発生 フナバラソウ タヌキマメ

堤防の除草作業に指定場所の確認が徹底されずに刈り残しや刈り取りが指定時期に行われなくなる事態が頻繁に起きるようになっていきます。木津川には一か所にしか生育していない植物が多くあります。またここ数年確認できない植物もかなり出現しています。こうした手違いから貴重な財産が絶滅に向かっていきます。私達里山の会は、発足以来木津川に強くかかわりを持って貴重種の保護に調査や維持保全に尽くしてきております。その結果を淀川河川事務所環境課や木津川出張所に報告を行い、草刈業者や占用使用者への徹底をお願いしてきましたが、近年目立ったミスが発生しています。京田辺市の緑化協会などと立会いを行って現状説明の上、保護のための保護に理解を深めています。

●中聖牛の運搬を田中組に打診 超大型ユンボで1km移動 12月

2020年の年末に予定している中聖牛の設置について、木津川の維持業者をされている田中組さんには随分と協力をお願いしてきました。今年は中聖牛の組み立てについては、里山の会の自力で組み立ててみようとして色々工夫を重ねてきました。特に木津川の増水が渇水期にも及ぶことが引き起こされてきました。そのたびに中聖牛の資材である木材を高台に移して流失しない対策が必要でした。2020年度はこうした事態が起きて大丈夫な所で組み立てることにしました。出来上がった中聖牛を設置場所に運搬しなければなりませんので過去に経験のある田中組さんに相談を持ち掛けました。経験を活かして運搬してみましょと快く返答を頂きました。今年の中聖牛の取組みの最大の難問台の運搬問題が解決をしました。安心して作業に架かることになります。

●今年の梅雨は線状降水帯の連続で水害地が大規模に発生

特に九州や中部地方で大きな災害が起きています。コロナウイルス渦で避難者は大変です。最近の情報によりますと、堤防の決壊による浸水被害の発生でなくて予想外の大量の降雨によって堤防を越える水によるものや排水ポンプによる排水が間に合わなかった場合や排水ポンプの設置場所が低く起動しなかった事が報道されています。これらはこれまでになく大量の雨が短時間に降って排水装置が使い物にならないくらいの激しい変化によるもののようです。いわば気候が経験していない形に変化していることになるのではないのでしょうか。山城地域を流れる木津川本川は元来天井川で暴れ川と呼ばれてきました。内排水問題は山城のどこで起きても不思議でない地域です。大川樋門や神矢樋門、森排水機場には排水ポンプが設置されていて水害予防の施設です。この機会にこうした施設によって日頃の暮らしが守られている実態の再認識をお願いしたいものです。

●夜の生き物調査の案内 普賢寺小学校へ 現在参加申し込み3組

梅雨の末期のこの時期に毎年夜の生き物調べを行ってきました。一昨年は朝まで夜通しの観察会を行いました。昨年は徹夜の予定をしていましたが、23時ごろには全員が引き上げられましたので、打ち切りとなりました。当日参加も可能といたしましたので、開始定刻に集まった皆さんは夕食に帰宅される方々もおられ、20時以後に再度参加される皆さんと、そのころからお越しになる方々が集中してしまっ、駐車場の整理や調査観察の案内などが重なって大混乱となりました。今年はこうした経験とコロナウイルスの感染予防から募集人数を許容範囲に収まるように改善をいたしました。大勢の皆様方にご参加を頂きたいのですがこうした事態になりましたのでご理解とご協力をお願いいたします。

●里山の会の会計の実態 補助金での事業推進で資金繰りに大きな悩み 多額の資金が必要

里山の会の収入は会費と寄付と物品販売によって運営を行っている組織です。運営のための助成金は無く、里山農園の作物販売による協力金による自主財源で運営を行ってきました。25年間で最高会員数は260人を記録しましたが、年々減少して現在は140人に半減しています。大変厳しい会員減少になっています。熱意ある人々の集団として何事もボランティア活動で無報酬・人件費無しで運営してきました。そして数多くの実績をあげながら、通常経費へは使えない助成金を申請しながらの活動を継続してきました。これ等の殆どは清算払いとなりますので活動資金が必要になります。借入金を工面しながらの活動継続でした。相当無理を重ねてきたのです。会員減少は自主財源とする里山の会にとっては致命傷になりかねない事態となっています。

るのです。自然を大切にする仲間の輪を大きくするスローガンの実施が今ほど必要な時期はありません。発足以来の危機的な状況に直面しているのです。ご理解ご協力をお願いいたします。

●魚とりの事前準備の内各自治体などへの後援依頼申請事務が大変です

また河川レンジャー主催と里山の会が共催についてもコロナウイルスの感染要望対策を徹底しないと許可されませんでした。例年ですとそれほど苦労しなくてもすんなりと推進できたものだったのですが、コロナウイルス感染防止のために東京オリンピックが延期されるなど世界的な大流行が始まって、すべての活動が非常に難しになりました。それでも宣言が解除されたのでビクビクしながら魚とりの準備を大急ぎで進めていただきました。小学校の夏休みは8月1日、8月6日、8月8日など山城管内でばらばらに始まるようです・そして夏休みは8月24日までとか大きく短縮されるので厳しい日程になりました。期待されている皆さんには申し訳ないですが窮屈な日程で募集人数もかなり縮小せざるを得なくなりました。募集が始まりますと短期間に満員になると予想されます。ご注意ください。

●中聖牛の資材(木材)の確保に滋賀県森林組合の積極的な支援が実現

去年は原小組様のご苦勞で木材を用意していただきました。今年は何とか地元でと考えてきました。滋賀県森林組合さんのご協力で8月8日ごろに入荷していただけることになりました、昨年から里山の会独自で中聖牛の組み立てができるようになれないかと有田さんに随分とご苦勞をお願いしてまいりました。昨年12月から設計図や組立て方の研究を有田さんに頑張ってもらいました。会誌48号発行ごろに設計図が完成し、そして3月末には組立て方の写真解説ができました。そして4月末にはミニモデルが組みあがりました。4基分を作り上げていただきました。そのうえミニモデルのセットが6組分、そして材料も6組分用意して事務局で体験をして事務局メンバーから少なくとも理解者を数人育てていただきたいと申し出がありました。

●トヨタ環境活動交付金の意義と役割り位置づけ1月からの取組

1月19日に木津川でのイタセンパラの復活を目指す皆さん19人で打ち合わせ顔合わせ会を開き、現地視察もかねてお集まりをいただきました。その後里山の会では除草作業や通路確保のための草刈りを実施しました。また摂南大学ではワンドの生き物調査を行っていただき、ワンドCでは二枚貝の貝殻が発見され、6月にはドブガイや二枚貝を採取でき、そしてタイリクバラタナゴが捕獲採取されました。また現地視察された小川力也さんからは研究していたころの環境でイタセンパラが生育していたころの状況がそのまま残されている。と感想を頂きました。これらの結果から、この運動の最大の課題であるイタセンパラ生育の可能性があるということが判明しました。大変大きな扉が開いたのです。期待に胸が膨らみます。ここまでの成果をトヨタ環境活動に報告しようと思っています。そしてパンフレットが完成すれば記者会見もできるだろうと思います。そんなに急がなくてもいいのではないかといい声もお聞きしています。事務局で十分審議して慎重な取り組みを進めます。

●中聖牛設置はどの取組の狙いについて竹門先生からいただいた説明文を掲載しています。

17《研究2年目の目標の概要》

一般研究1年目の研究から、治水上・環境上も効果を期待できる設置場所並びに設置方法によって、伝統的河川工法で製作した竹蛇籠並びに聖牛を木津川20km付近に実際に設置まで実行することを2年目の目標とする。また、同年中に出水が起きた場合には、伝統的河川工法が河岸浸食の抑制や砂洲上に側流路を形成・維持させる機能を発揮できたかどうか検証することを目標とする。さらに、15～6Kpの試験施工現場のモニタリングも行い、3年後及び5年後の変化を追跡することも目標となる

18《一般研究3年目の目標の概略》

木津川20Kp付近に設置した伝統的河川工法が河岸浸食の抑制や砂洲上に側流路を形成・維持させる機能を発揮できたかどうかをモニタリングによって評価することを目標とする。さらに、生物相の経年変化を調査することによって、この地点の河川生態系に対して与えた影響についても評価することも目標とする。さらに15～6Kpの試験施工現場のモニタリングも行い、4年後及び6年後の変化を分析する。